

事業所名

あすなるクラブ（放課後等デイサービス）

支援プログラム（参考様式）

作成日

7 年 2 月 20 日

法人（事業所）理念	障害があっても生まれ育った地域の中でその人なりの役割を持ち生活していけるよう支援します。これらの支援を幼児期から学童期、成人期に応じ一貫した支援を行います。		
支援方針	異年齢集団ならではの学びを大切に、育ち（生活年齢）に応じて自主性、主体性、協調性が発揮できる活動の組み立てを行う。居場所＝役割を大切にする。		
営業時間	9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし ・通学先への迎えあり ・ご自宅への送りは応相談
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	関係機関（特に通学先）と連携し、健康状態、食、睡眠、排泄、その日の調子についてなど、情報共有を行う。持ち物や着替えの管理など、自己管理しやすい環境を整え、自立を見守る（後方支援を行う）。	
	運動・感覚	感覚統合の機能向上を目指し、団体の活動内に個別の目当てを持って支援を行う。 ダンス、体操、サーキット運動、室内ゲーム（運動）、公園遊び、目的を持ったウォーキング、お掃除など	
	認知・行動	集中力、着目力、協応動作、協同作業に重点を置き、団体の活動内に個別の目当てを持って支援を行う。 調理、食事、制作、室内ゲーム（机上）、買物など	
	言語 コミュニケーション	状況の言語説明や、思いの言語表現ができるよう、場面ごと本人が分かりやすい言葉で代弁しながら、「こう言うといい」経験を積み重ね、発信力を上げていく。 表情や行動から、本人の訴えや思いを拾って言語化、代弁し、「分かってもらえた」経験を積み重ねることで、やり取りを成立させ、発信力を上げていく。	
	人間関係 社会性	興味関心の持てる遊び、物を介した遊びなど、他者と関りが持てるような活動を取り入れ、経験値を上げていく。 場面（場所、時間、活動内容）に即したルールやマナーが身につくよう、繰り返し、集団で経験を重ねていく。	
家族支援	生活年齢に合った関り、距離感など共有しながら、自立に繋がる生活スタイルについて一緒に考えていく。	移行支援	児から者への生活変化に乗っていけるよう、特に個で過ごせる力を大切に考え、支援を行う。本人が望むこと、実際にできることなど、細やかな観察を行い、伝えていく。
地域支援・地域連携	地域の公園、社会資源の利用など積極的に行い、広く「知ってもらおう」ことを大切にする。	職員の質の向上	積極的な研修参加。研修を受けた職員は、その研修内容を、即時全体に周知する。実践、検証、考察など、常にチームで行う。
主な行事等	平日のミニイベント…お花見、夏祭り、ミニ運動会、ハロウィン、クリスマス、新年会、節分、卒業生お別れ会など 長期休み中のチャレンジ活動…公共交通機関の利用、外食、カラオケ、ボーリング、プール、ウォーキング、トレッキングほか		